

令和3年度当初予算の概要 (事業別説明資料)

消防本部



目 次

救助資器材の導入による安全強化*	3
消防団の常設型訓練場の整備	4
消防団の入団促進及び協力事業所のPR	5
消防団活動装備品の充実強化	6

注：タイトル末尾に*印がある事業は所属ごとの概要資料のみに掲載しています（*印がない事業は主要事業編から再掲となります）

新規 救助資器材の導入による安全強化

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
2,000	一般財源	2,000 消耗品費

(前年度予算 0)

2 事業背景・目的

これまで、高所での救助活動や安全管理を行う際、胴ベルト型安全帯を使用してきましたが、簡単に装着できる反面、墜落した場合、胸腹部の圧迫あるいは抜けによる地面へ落下の危険性が考えられました。今回、労働安全衛生法の一部改正に伴い、より安全性の高い墜落制止用具に更新します。また、墜落制止用具と合わせて、これまで3年かけ導入の検討とマニュアル整備及び職員の教育訓練を実施してきた編み構造ロープと器具を導入することにより、ロープを使用した救助活動の選択肢が増し、より安全、迅速確実な活動が可能となります。

3 事業概要

○ 墜落制止用器具、編み構造ロープ・器具の導入 (2,000 千円)

高所活動における墜落・転落による公務災害防止のため新基準対応の墜落制止用器具を整備し、職員の安全確保に努めます。また従来の三つ打ちナイロンロープに加え、導入する編み構造ロープと器具を各消防署へ配備し、すべての消防職員が新たな救助技術を習得することにより救助現場での対応能力向上と安全強化に努めます。

(款)	9 消防費	(項)	1 消防費	(目)	1 常備消防費
所 属	飛騨市消防本部古川消防署救急課	TEL	0577-73-0119	予算書	P.117

新規 消防団の常設型訓練場の整備

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
4,795	一般財源	4,795
		工事請負費
		4,795

(前年度予算 0)

2 事業背景・目的

消防団が例年実施している入退団式、操法大会、年末夜警、出初式などの行事や活動については、いずれも複数人が一堂に会するものであることから、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、どれも中止や縮小、人数制限など計画どおり実施できない事業が多くありました。一方で幹部講習にあっては、密を避け分散型とし、各署と方面隊が連携して、資機材取扱い訓練を平日の夜間に行うなど、感染症対策を徹底しながら実施してきました。

令和3年度においても、コロナの影響が続くことが予想され、これまでよりも団員の訓練や活動機会の減少が懸念されることから、新たに基本的な消火技術の維持・向上の場として、各消防署及び古川町、神岡町のヘリポートを、各分団や部ごとなど、少人数でも訓練の行える常設型の放水訓練場として位置づけ、消防団が消防署と連携し、いつでも訓練に使用できるよう整備します。

また、火災時において団員の召集が難しいケースも考慮し、少人数での訓練をこれまで以上に推奨し、有事に備え取り組んでいきます。

3 事業概要

新たに位置付ける常設型の放水訓練場のうち、古川消防署の庁舎西側駐車場においては、消防署と消防団の連携した訓練の実施にとっても有効な場所ですが、現在の未舗装の状態では、資機材の損耗に繋がり訓練の支障となることから、今回舗装を行い、訓練しやすい環境を整備します。



(款)	9 消防費	(項)	1 消防費	(目)	1 常備消防費
所 属	飛騨市消防本部古川総務課 TEL0577-73-6198			予算書	P. 118

新規 消防団の入団促進及び協力事業所のPR

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
711	一般財源	711 消防品費
		711

(前年度予算 0)

2 事業背景・目的

人口減少・高齢化の中、地域防災の要である消防団は高齢化・硬直化が進んでおり、将来的に維持困難な部も出てくるのが危惧されます。その中で飛騨市では魅力ある、やりがいのある消防団組織とするため消防団処遇改善、装備の充実等を継続的に図ってきました。

岐阜県においても消防団支援減税制度ほか、消防団が活動しやすい企業側の体制づくりの事業を実施しており、飛騨市においても消防団協力事業所として80の事業所を認定しています。

令和3年度は、こうした企業とも連携し、更なる入団促進のPRを行ってまいります。

3 事業概要

消防団加入PRマグネットシートを消防車両に貼り付け、さらに飛騨市で認定している消防団協力事業所にも配布して貼り付けを依頼し、消防と企業の双方の車で消防団入団をPRすることにより効果を高め、消防団員の士気の向上を図るとともに、消防庁舎へ横断幕・懸垂幕等で「消防団募集」をPR表示します。

(款)	9 消防費	(項)	1 消防費	(目)	2 非常備消防費
所 属	飛騨市消防本部総務課 TEL0577-73-6198			予算書	P. 119

継続 消防団活動装備品の充実強化

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
2,365	ふるさと創生基金	2,365
		消耗品費 2,242
		備品購入費 123

(前年度予算 9,000)

2 事業背景・目的

飛騨市では過去5年間の平均で年7件の火災が発生しており、その都度消防団を召集し消火活動を行っているほか、災害時の見回り等の防災活動を行っています。

消防団では、有事の際の団員の安全かつスムーズな消火活動や防災活動のため、様々な資機材の更新、配備を行っており、令和2年度は防火衣、雨合羽、救助資機材等の配備を行いました。

令和3年度は、令和2年度に起きた神岡町船津地内の住宅密集地での火災における消火活動の経験を踏まえ、新たな資機材の導入による、更なる活動時の対応力向上、団員の安全性の向上を図ります。

3 事業概要

下記資機材を導入し、消防団員の火災現場での対応力及び安全性の向上を図ります。

- ・アラミド防火衣の追加配備

現在各部に1着ずつ配備されているアラミド防火衣を火災現場において先頭で放水を行うのが原則2名なのに合わせ、各部2着となるよう追加配備します。

- ・防煙・防塵機能を備えたマスク及びメガネの配備

神岡町船津火災において、充満する煙によって団員の活動に支障があったことから各分団への配備を行います。

- ・低水位ストレーナーの試験導入

水量が乏しい側溝等の水利からでも給水可能な低水位ストレーナーを各署に試験導入し、実用性を検証したのち、配備の必要な箇所等を検討します。

(款)	9 消防費	(項)	1 消防費	(目)	2 非常備消防費
所 属	飛騨市消防本部総務課 Tel0577-73-6198			予算書	P.119